

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第15回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



「われらのインター」で吠えまくる松崎・・・その1「東労組本部はダラ幹！」

～平成19年、松崎はJR総連・東労組の関連・外郭団体、「国際労働総研」を設立し、自らはその会長職に納まった。そして、機関誌『われらのインター』を創刊(同年8月)した。～

松崎; (7人は)良く闘ったなど、本当に立派でした。ご苦労様でした。俺が一番悔しかったのは、早く宣伝カーを出して組合歌をガンガンやれと、そんなことはいくらだってやれるじゃないかと、それが全然駄目なんだよな。俺が当人だったら直ちにやるけれども、やっぱり当人じゃないということはもどかしいもんだなとつくづく思った。本部のダラ幹め!とそれ以降思っているのだけれども。要するに、闘っている人の立場に立っていない。だから今回の判決に対する抗議文も東労組本部のが一番駄目ですよ。...俺は無罪だと思っていましたよ。ただ国家というところを見ていけば、それはそうだろうけれども、ねじ曲げれば有罪にはなるなど、明らかにねじ曲げるしかないなど。...そういう国家の弾圧に対する怒り、それが終始貫徹されていないと。会社がどうだとか、あるいは何か激しくやると警察がどうだとか、そんなイロハのイなんだよね。当たり障りなくやろうという、この姿勢ですよ。私が見ている限りの本部の姿勢は。それに対し俺は許せなかったし、ダラ幹どもはと行ってきたし、メンシェビキとまで言ってきた。口汚く俺は随分罵ってきたし、俺は実際あの頃は血圧が190だったからね。...本当に7人の皆さんは良く闘ったと思う。普通こんなに闘えないよ。これだけの厳しい弾圧に対して闘い抜けたというのは、もちろん家族の皆さんの支えだとかいろんな支えがあった。家族の皆さんが「控訴しないでくれ」というは当たり前なこと、控訴して頑張れと言ったらその人はおかしいよ。それはそうだと思うよ。そういうことをごくごく普通の人間に対して、そういう家族に対して自分たちが済まないという思いがあるのなら、しかし白分が正しいのだと、そのことを貫けたというのが「崇高な心」というのだよ。俺はそう思う。...あれはやっぱり"無罪ですよ。だから控訴して断固無罪を勝ち取るんですよ。はっきりと言ってわれわれ無罪ですよ。声を挙げた方が良いですよ。今後の展望というか、四茂野副委員長が本当によく頑張ってくれていて、国際連帯をつくり出したし、ILOを含めて日弁連もそうだし、俺は北海道で最後の講演を5つやっていた。そういうことで、自分たちのやって来たことを過小評価しないで、出し惜しみしないで大いに大物ぶって下さい。

～私(筆者)には、松崎が最近のJR東日本労政に対して大いに不満であり、「美世志会」支援行動をもっと盛大にやれとネジを巻いてもなかなか子飼いの組合役員連中が思うように動かないことに苛立っている状況が窺われないへん興味深いのだが、ともあれ「松崎明・国際労働総研会長の基本思想・姿勢」と併せて、「JR総連・東労組の最高権力者が浦和電車区事件に関するJR東日本施策に対する最強硬姿勢者」であるということは紛もない事実である。本心では「殿、ご乱心!」と言いたいのだが、ひたすら耐えて、何の展望も見いだせないまま、このところ諸事強気のJR東日本経営幹部に気を遣いつつ不安な日々を過ごしている「松崎チルドレン」と称される者たちの心中は、察するに余りある。～

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉映(高木書房)P.156～P.160】